

## 妊産婦4%に精神的ケアを!

厚生労働省の研究班が妊産婦さんの精神的ケアの必要性を調査し、16日にまとめました。

対象は全国でお産を扱う医療機関2453施設に対してアンケートを実施。昨年11月の1ヶ月の間に出産した妊産婦の状況について調査したものです。

その結果、精神科への受診など医療的なケアが必要とされた妊産婦は全体の4%に当たることが明らかになりました。全国的に見ると、年間の出産数は毎年約100万人ですから、年間約4万人の方が精神的な問題を抱えていると推計できます。なかみは「抑うつ・精神不安」が38%、「精神疾患」が30%などで精神科への通院歴がなく、妊娠をきっかけに発症した可能性が高い人は25%に上がり、10代、20代の若い女性に多く見られたということです。特に「結婚していない」「経済的問題(貧困)」「両親が離婚」「実母との折り合いが悪い」など社会的背景が潜んでいることが原因になっている場合が多いようです。

調査をまとめた日本産婦人科医会の中井非常務理事は「妊産婦が精神的な問題を抱えていると子供への虐待などにもつながりかねない。妊娠中でも積極的に精神的な治療を受けるように」と望んでいます。

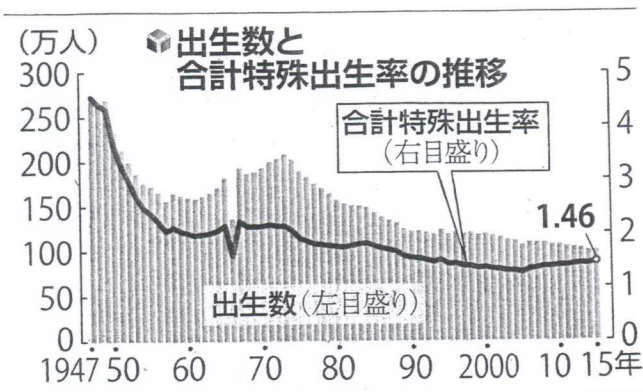
## 出生率が1.46に回復

5月23日に厚生労働省が発表した2015年の日本の人口動態統計では1人の女性が一生に産む子どもの数を示す「合計特殊出生率(\*1)」は**1.46**で、前年を0.04ポイント上昇、94年の1.50以来、21年ぶりの水準となったことが分かりました。しかしながら、全国の人口自然減は約28万人です。

(\*1 人口統計上の指標。一人の女性が産む子どもの平均数。これにより

異なる時代、異なる集団間(国、人種)の人口の自然増減を比較できる)

福井県の合計特殊出生率は**1.63**で19年ぶりの高水



準でした。都道府県別では前年の14位から10位に上がりました。出生数は前年から64人増で6230人。3人目以降の出産数が増えているようで嬉しい限りです。片や、死亡数は9871人で、出生数を差し引くと自然減は2741人でした。小浜市は数値がまだ示されていませんが、自然減になっていることは確かです。なんとか自然増になる方策はないのでしょうか。

### 《 閑話 》 生きた証が4Gメモリ1本

去年の秋、「早稲田文学」という雑誌の新人文学賞を私の親友N君が受賞しました。御年78歳、過去の最高齢者でした。彼は20歳くらいから小説を書き始めて途中、非正規雇用で長らく働いていましたが、時間を見つけては創作に専念していました。生計は内縁の妻に頼っていたようですが、彼女は10年ほど前に先立ちました。その彼がつい先日、今までの全作品を私に送ると言ってきました。そして郵便で届いたのは何と4ギガのUSBメモリ1本。愕然としました。その中には勿論、早稲田文学の新人賞の作品も入っていましたが彼が心血を注いで書き綴った(正確には“打ち続けた”)全作品が箸の枕ほどの大きさに600円にも満たないメモリ1本に収まっている。原稿用紙にしたら一体どのくらいか。見当もつかない。

彼の高齢者振りに驚いてはいられませんでした。5月17日の新聞には蓮見重彦氏(元・東大校長)は80歳で三島由紀夫賞を受賞したと報道されていました。これも過去最高齢者だということ。彼は記者会見で“私を選ぶのは暴挙”“私の作品は到底傑作とは言えません”と謙虚に発言されていましたが、しかし、蓮見氏は「功成り名遂げた人」、それに比べてN君は真逆。今も底辺の生活を送っています。彼が何故私に全作品を送って来たのか。彼は「僕の人生は何だったのか」と電話で私にさかんに問い掛けましたが、答えられる筈がありません。

誰もが高齢者の世の中になり、遙かな過去の人生を振り返る時、各々が“みんな違ってみんなよい”という心境になれればいいんですが…。 (松井)

### 《 あとがき 》

1)桜は4月10日までにほぼ散りましたが、梅は散って、実が大きく成長し始めております。小浜住吉の明治時代の建築「旭座」が4月から白髭に生まれ変わりましたが大きく成長してくればよいが。2)当院待合室のミニギャラリーは5月から増山昭次氏(小浜市遠敷)の雀の写真。親子の給餌のさまが苦心の餌付けにより、撮ることができました。羽を広げて飛び立つ一瞬の姿は見事なキャッチです。